



- 家庭教育支援チーム研修
- 「虹色企画」大仙市訪問
- リーダー養成講座①
- 能代公園「おもしろ祭り」
- サポーター養成講座①
- 生涯学習センター事業

秋田県生涯学習センター(編集:社会教育アドバイザー)

令和元年度 学校・家庭・地域連携総合推進事業家庭教育支援指導者等研修

社会全体で家庭教育を支援する必要性が高まる中、本県では、地域人材が中心となって家庭教育を支援する「家庭教育支援チーム」の設置を推進しています。今年度も市町村でチームの中核となる「リーダー」と、地域人材となる「サポーター」の養成講座(年間3~4回の開催予定)がスタートしました。

家庭教育支援チーム・リーダー養成講座①

5月29日 秋田県生涯学習センター

テーマ 「家庭教育支援の優れた活動事例を知ろう」

実践紹介 「子育て中の方の社会参画を意識した家庭教育支援」
(愛知県武豊町家庭教育支援チーム Smiley Dream 櫻井雅美 理事長)

講義・演習 「秋田県の家庭教育支援チームの現状と課題」
(秋田県教育庁生涯学習課 佐々木達也 社会教育主事)



家庭教育支援チーム・サポーター養成講座①

6月20日 能代市 / 7月4日 湯上市 / 7月18日 横手市

テーマ 「家庭教育支援チームの基礎を理解し、地域で活動するチームから学ぼう」

講義 「家庭教育支援チームの必要性」(秋田県生涯学習センター 菊地 智 社会教育主事)

実践紹介 6/20 あそびのひろばぱれっと[能代市]
7/4 男鹿市家庭教育支援チーム[男鹿市]
7/18 和輪人(わわっと)[湯沢市]

協議 「現在の取組を生かして」



【詳細は、当センターホームページの家庭教育支援指導者等研修実施レポートをご覧ください。】

虹色企画

訪問インタビューシリーズ 第7回 大仙市教育委員会 吉川正一 教育長

— 教育は市政の柱と聞か

市総合計画の柱の一つに「教育の充実」が明記されており、「将来の大仙を担う子どもの育成」を目指している。

— 地域一体の学校づくりとは

8市町村合併後、「人的・物的財産の活用」を施策の根幹に据え、「住民の誇り」と「子どもの関わり」を考えながら取り組むことが課題の一つであった。

そこで、平成28年度に「大仙教育メソッド」を策定し、地域活性化に寄与できる子どもの育成に着手した。具体的には、「基礎となる力」と「学ぶ力」を活かした「地域に根ざしたキャリア教育」や「ESD(持続可能な社会づくりの担い手育成)」などに取り組んでいる。

人が生き 人が集う 夢のある大仙市

学び続けて 豊かな社会づくり



大仙市教育委員会 吉川正一 教育長

— 大仙の生涯学習のキーワードは

「共(ともに)創(つくる)考(かんがえる)開(ひらく)」は、生涯学習を含めた大仙教育の理念である。メソッドの「基盤となる力」では、「思いやり」、「たくましさ」、「市民性」がキーワードとなる。特に、「市民性」の育成については、子どもたちが参加型民主主義を理解し、必要な知識やスキル、価値観を身に付けるための「シチズンシップ教育」が必要。行動的な市民となるプロセスを学ぶ生涯学習となるよう期待している。

教育長室には「次の大仙はほくらがつくる」のポスター。教育長さんの笑顔の先には、いつも子どもたちがいる!と思いました。



おもしろ祭り
5月19日 能代公園



「能代公園おもしろ祭り」は、今年で3回目の開催となりました。暖かな日差しの中、家族連れなど多くの人たちが、地域の元気を満喫していました。池畔ステージ、松風庵、龍泉寺、景林神社などでは、太鼓や踊りの郷土芸能、オーケストラやバンドのライブ、キッズファッションショー、文化財の公開、写経・写仏・まんだら塗り絵の体験、写真等の展示、クイズラリー、ノルディックウォーキング、野点や出店など、多彩な催しで大盛況でした。特に、ライブステージでは、当センター宮腰徹主任社会教育主事がリードするバンド演奏が好評で、観客の皆さんから拍手喝采を浴びていました。

セミナー

秋田県生涯学習センター 2019年度事業の概要



当センターには、本県生涯学習・社会教育推進の中核機関として、3つの機能があります。今年度の具体的な事業概要は以下の通りですが、特に、アンダーラインの項目については、新規目玉事業として取り組んでいます。

1	シンクタンク	(1) 調査研究の推進・拡充 ① <u>「障害者の生涯学習」調査研究</u> ② 家庭教育調査 ③ 社会教育調査	(2) 「まなびサポート秋田」の充実 ① インターネット検索システム ② 市町村職員へのシステム活用研修 (3) 運営委員会の開催
2	研修 人材育成	(1) 研修事業の推進・拡充 ① 生涯学習・社教関係職員研修 ② 家庭教育支援指導者等研修 ③ 研究大会(兼)行動人交流集会	(2) <u>オーダーメイド型社会教育主事派遣事業</u> (3) 生涯学習団体への支援 (4) 「行動人」の推進
3	学習活動推進 情報発信	(1) あきたスマートカレッジ事業 ① カレッジ講座 ② 単位認定制度 (2) 「まなびサポート秋田」による	情報発信 (3) 情報誌の発行 (5) 相談業務 (7) 視聴覚教育 (4) 展示ホール催事 (6) 出前講座 (8) 施設利用の促進

【新規目玉事業については、次号から2回にわたってこのコーナーでその概要を紹介する予定です。】

七色

「三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理で未決まる」。江戸町衆の養育・鍛育方針「子育てしぐさ」です◆三歳までに心の豊かさを教え、六歳までに礼儀作法を身に付けさせ、九歳までに相手を気遣う言葉を言えるようにし、十二歳までに中身が伝えられる文章を書けるようにして、十五歳までには物事の意味や仕組みを理解させるというものです◆すべての基礎・基本となる心を習い、いずれ必要となるスキルを磨き、やがて生きることとなる社会の道理を知るという遠大な子育てマニュアルは、まさに「三つ子の魂百までも」を彷彿させます。人間関係を築くために人を気遣う習慣の大切さを貫いているところに、現代感覚では失われつつある家庭教育の原点が見え隠れしている気もします◆今年度の家庭教育支援指導者等研修が始まりました。大人から子どもへ、その子どもが大人となってさらに次の世代へ…、家庭教育の根本に何を据え、何を貫くのか…。持続可能な家庭教育の実現に向けて、子どもが育つ環境たる“大人の姿勢”を問い続け、「子どもは親の言うとおりににはならない。親のしたとおりになる」ということに真摯に向き合う一年となりそうです。

